日本教育新聞
創刊 1946(昭和21)年5月1日
発行所
日本教育新聞社
〒105-8436
東京都港区虎ノ門1-2-8
電話03(5510)7777(大代表)
郵便振替 00150-8-196500
©日本教育新聞社 2011

# 特色のつくりかた ▼10

## 小規模校の現在（いま） 2

## 兵庫県立千種高校

# 地域と連携できめ細かい指導

兵庫県立千種高校は兵庫県・岡山県・鳥取県の県境山間部に位置する。豊かな自然に恵まれた地域だが交通の便は悪く、冬は積雪に悩まされる過疎の町である。近年定員割れが続き、このままでは募集停止・廃校の危機もささやかれた。また、生徒指導上問題を抱える底辺校・困難校というレッテルを貼られた時代が続き、地元から敬遠されがちな学校となってしまった。

そのような中、文部科学省の「研究開発学校」の指定を受け、地元スキー場・ゴルフ場と連携し、スキー実習・ゴルフ実習を伴う体験型の授業を取り入れる特色ある教育課程を編成した。さらに「コミュニティ・スクール推進事業」「小規模校活性化支援事業」など文科省・県の指定を通して学校の生き残りをかけ、さまざまな取り組みを重ねた。

地元中学生の入学者数を増やすため、中学生・保護者にアンケートを実施し、本校の評価・望まれる姿を確かめた。当然のことながら、地元が求める高校は生徒指導面の問題が少なく、落ち着いて授業が受けられ、好きな部活動が行え、進学・就職などの進路が保障されることである。その課題を達成するための方策として、1クラスを「チャレンジ」「ベーシック」「アクティブ」の3コースに分け、生徒の多様なニーズに対応するカリキュラムを編成した。職員の粘り強くきめ細やかな指導により進路保障も実現し始め、そのことを学校新聞の全戸配布やホームページなどで地域にPRすることで少しずつ良さが認められるようになった。また、地域との連携が重視され「千種高校を支援する会」が設立されたことは、いろいろな行事を行う上でも大きな推進力となった。

22年度から、県下初の「連携型中高一貫教育校」のモデル校となり、宍粟市立千種中学校との連携に取り組んでいる。環境美化活動・文化祭・体育祭・講演会などを合同で行う「連携行事」、それぞれの教員が中高に出向く「連携授業」、理科・社会科などでは中高生が共に学ぶ「協同学習」を実施した。また、そのための職員連携として「中高連携実行委員会」「合同職員会議」「専門部会」「研修会」なども展開している。

これらの取り組みを通して、学校は生まれ変わった。特別指導・中途退学者は激減し、地元中学校からの進学率は上昇し、入学した生徒は明るく生き生きと学習活動を行い、国公立大学に進学する者・就職する者と満足度の高い進路実現を果たしている。

少人数ではあるが、部活動も活発になり上位大会に出場する成果も上げている。まさに地域に支えられ、地域に根差した学校として生まれ変わった。今後はさらに近隣町村からの入学生徒確保も考慮し、これからも変化し続ける、新しい学校のかたちを求めて展開していきたい。

（校長・浅田尚宏）

地元ゴルフ場を利用してのゴルフの授業